

青森

全校児童が一丸となって
地球温暖化問題を考える



青森市立堤小学校

青森県青森市



堤小学校では、地球温暖化への アクションを軸として、全校が一丸となって 温暖化防止の活動に取り組んでいます

本校は青森市の中央部に位置し、近くには堤川が流れ、中央市民センターなどの文教施設も多く、閑静な住宅地が広がる地域です。

3年前から地域ESD活動推進拠点校に登録され、新学習指導要領を受け、全校で地球温暖化防止の活動に取り組んできました。各学年でESDカレンダーを作成し、総合的な学習のみならず、各教科との関連を図りながら、実践を行ってきました。ESD活動支援センターや地域人材との連携を図りながら、児童の問題意識に沿った活動を進めています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上：留学生に話を聞く
下左：りんご農家に聞く
下中：全校への呼びかけ
下右：野菜の専門家に聞く

〒030-0813 青森県青森市松原2-4-4

電話 017-734-5579

FAX 017-734-5621

E-mail tsutsumisyo@aomoricity.ed.jp

URL <http://www.aomoricity.ed.jp/tsutsumisyo/>



活動紹介

地球温暖化ストップ プロジェクト



グリーンカーテン



地球温暖化ストッププロジェクト、結果発表

プロジェクト概要

本プロジェクトについて、昨年度の6年生の実践を紹介します。児童は、5年生の時から、地球温暖化を防ぐ活動に取り組んできました。6年生になり、地球温暖化の影響について、さらに知りたいと考え、りんご農家、ホタテ漁師、野菜の専門家、気象台の方にお話を聞きました。実際にりんごやホタテを育てている方のお話には説得力があり、地球温暖化は、本当に深刻な問題であることを、実感することができました。そして、自分たちが温暖化を食い止める行動を起こさなければならないという気持ちが強くなりました。自分たちでできることに取り組みたいと考えた児童は、全校のみんなに呼びかけて、節電、節水、ごみの減量に取り組んでもらいました。それが、放送での呼びかけ、ポスター作り、チャレンジカードの作成など、全校での取り組みにつながりました。

ESD実践のポイント

気候変動を自分事として捉えるために、留学生から直接、話を聞く機会も設けました。日本以外の国々では、どのような温暖化の影響があるのか、そして、どんな対策をとっているのか、留学生から直に話を聞きました。そのことにより、児童は温暖化が日本だけの問題ではなく、地球全体の問題なのだという、危機意識をもちました。また、地球温暖化を防ぐ取り組みとして、教室に「きゅうりのグリーンカーテン」を作りました。実際にやってみると、日差しを防ぐことができ、節電につながることを実感することができました。自分たちが実践していることを地域の方々にも広めようと考え、町会長さんや中学生にも自分たちの取り組みを発表しました。3月には卒業しても、この取り組みを続けたいという子どもたちの言葉に、成長を感じました。

担当者からのメッセージ

初年度から2年間取り組んだ学年の児童は、自分事として考え、どんどん探求的に取り組んでいくようになり、本気な姿に、大きな成長を感じました。調べるときの姿勢、まとめたことを伝える活動、学校全体や家族、地域への取り組みのアピールと実践など、教科書の学習では学ぶことができない、すばらしい学びができています。子どもたちが生き抜く未来を、自分たちで創っていく力が育つものと確信しています。



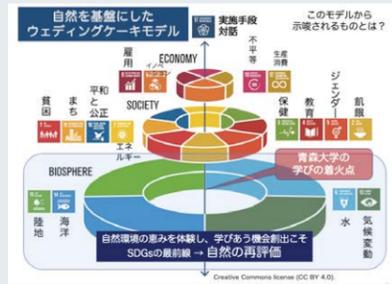
青森市立堤小学校 校長
山崎 斉さん

青森

高等教育機関の可能性

地域の中小規模の

地域の自然の再評価に向けた



青森県青森市



青森大学 AOMORI UNIVERSITY

ネイチャーポジティブ時代における 地域の自然の再評価に向けた 高等教育機関の可能性と課題

青森大学のような小規模私立大学は全国に460あり、全体の77%を占めています。本学では附属総合研究所SDGs研究センターを軸に、基本方針「地域の自然の再評価」のもと、ストックホルム大学のウェディングケーキモデルの考え方を踏まえて、普段見落としがちな身のまわりの自然環境とのかかわりこそ、地域の社会的経済的課題の改善につながる「学びの着火点」と位置づけ、地域の関係者と学びの機会創出に奔走しています。同モデルはゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」を軸に、経済、社会、生物圏の3階層による立体的な構成になっており、小規模大学が機動力を活かし、人や組織を巻き込み社会変革を担う可能性を示しています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 新湯1 作業様子
下左: 2024年度浴槽修繕
下中: 新湯2 2023年度日本技術士会青森県支部 総会での発表
下右: ウェディングケーキモデルと学びの着火点

〒030-0943 青森県青森市幸畑2-3-1
電話 017-738-2001 (代表)
E-mail jimukyoku@aomori-u.ac.jp
URL <https://www.aomori-u.ac.jp/>



活動紹介

新湯再生プロジェクト



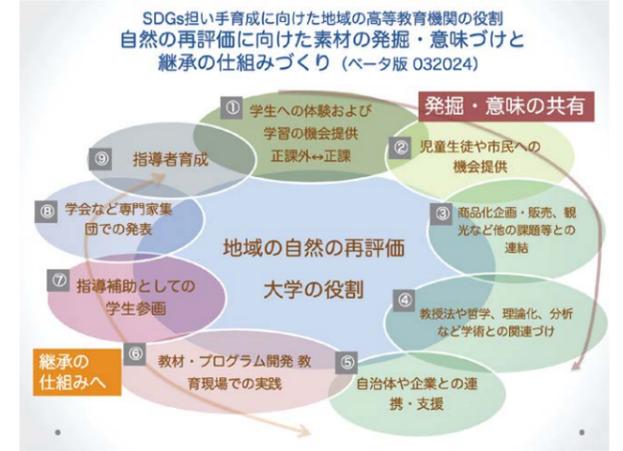
2024年度入浴



新湯3 Starlink
接続実証の様子

プロジェクト概要

新湯とは、青森大学の経営母体、学校法人青森山田学園が昭和47年から十和田八幡平国立公園の第2種特別区域を借用し、教育目的に設置したもので、未電化で建屋が4棟、63°Cの源泉が湧出しています。しかしながら、この10年ほど遊休資産化していたため、2019年から総合経営学部や社会学部のゼミ活動としてこのプロジェクトに取り組んできました。その立地条件と周囲の自然環境の豊かさから、野外での生活技術やコミュニケーション能力、災害時の対処能力の向上だけでなく、地球的視野に立った責任感や未来に向けたイメージと価値観を育むための施設として、チームワークやリスクマネジメント、非常時に重要となる労働の仕方や段取り、大工仕事など、防災や復興など有事でも役立つ能力育成を目指してきました。2024年度からはソフトウェア情報学部のゼミが参画し、Space X社のStarlinkを活用したシステムアーキテクチャの構築にも着手しています。



自然の再評価に向けた素材の発掘・意味づけと継承の仕組みづくり

ESD実践のポイント

このプロジェクトは、国立公園内に野天風呂を有するという稀有な特徴のみならず、現地の環境容量という制約条件のもと、複数学部の参画による教育コンテンツ開発の可能性と、日本技術士会東北本部青森県支部やKDDI財団など外部機関とのパートナーシップによって成り立っている点、天候や季節、施設の改修状況に応じた順応的プログラムを実施していることがポイントです。例えば、冒頭写真の水道復旧は、2021年度から約3年かけて学生らが日本技術士会青森県支部の支援・技術指導を受けながら約800mの水道管を八甲田山中の藪の中に敷き直し、2024年度は建屋や浴槽など施設の修繕に取り組みました。2025年度の目標は浴槽と宿泊棟の修繕を行い、現地で宿泊研修を実施することです。この宿泊研修では、環境容量を踏まえた体験型暮らしの能力育成をベースに、教育ツーリズムやデジタルリテラシー教育、通信インフラ整備など、各専門分野にかかる体験型学習プログラムの構築と人づくりの体系化を目指しています。

担当者からのメッセージ

ネイチャーポジティブの時代、SDGsのウェディングケーキモデルの実践と応用には、本プロジェクトのみならず、既存の考え方や進め方を抜本的に見直すことが不可欠で、信念や好奇心、怯まない姿勢、それに賛同する仲間づくり・応援団の形成が大切だと日々痛感しています。また、自然の再評価に向けた素材の発掘・意味づけと継承の仕組みづくり人づくりの体系化を目指しています。



SDGs研究センター長
藤 公晴さん



副センター長
佐々木 豊志さん

宮城

夢と希望を持って

たくましく生きる子ども



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)



緑の地球を子どもたちへ。

1993年から宮城県を拠点に活動を 続けている環境保全団体です。

1992年にブラジル・リオデジャネイロで開催された「地球サミット」をきっかけに、緑と水と食を通して環境とくらしを考え、地球の環境保全に寄与するために、私たちの地域からも活動を起こそうと、多くの市民、研究者、協同組合、企業、団体が集い、NGOを作ろうと立ち上がりました。市民一人ひとりが自覚を持ち、活動・実践していくことのできる場として、MELONがあります。当団体では、ストップ温暖化センターみやぎ※の事業として、宮城県内のSDGs環境学習支援を行っています。

※2000年5月22日、財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(現 公益財団法人)が宮城県知事の指定を受けて誕生。

■組織・団体が取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上: 梅田川での調べ学習
下左: 具体的な対策を調べる児童
下中: グリーンカーテンをつくってみよう
下右: 株式会社エフピコ社員による講話

〒981-0933
宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
電話 022-276-5118
FAX 022-219-5713
E-mail melon@miyagi.jp
URL https://www.melon.or.jp/



活動紹介

持続可能な社会の 創り手を育てる 「みやぎのSDGs環境学習支援」



伊達武将隊による種の贈呈



体育館でみんなで学習

プロジェクト概要

「みやぎのSDGs環境学習支援」は、「SDGs環境出前講話」と「SDGs教育プロジェクト」の2つの支援メニューがあり、新学習指導要領前文にある「児童が持続可能な社会の創り手となること」に沿って、講師のコーディネートやプログラム作成等の支援を行っています。1日完結型のSDGs環境出前講話では、「キリバス編」「南極編」「気候変動編」の3種類を用意しています。講話後には、当団体が作成した小冊子「SDGsと地球温暖化」やオリジナルウェブ教材「わたしたちのSDGsライフスタイル」を提供し、事後学習を促しています。通年型のSDGs教育プロジェクトでは、防災や気候変動の学習を体系化した学びにするために、独自のカリキュラムを編成しました。カリキュラムを受けて作成した個々の学習プログラムは、①新学習指導要領に沿った学習であること、②教科等に位置付けること、③教科横断的な学習であることの3つが特徴です。

ESD実践のポイント

「SDGs環境出前講話」では、キリバス編は感情に訴えて行動を促し、南極編は知的好奇心を高めて意欲につなげ、気候変動編はワークショップなどを交えて自分事につなげていく講話となりました。共通することは、深刻な課題を扱いつつも、子どもたちに「夢や希望」を与えて、持続可能な社会の創り手を育てることです。「SDGs教育プロジェクト」では、出前授業が1回だけの学校もあれば、継続して支援した学校もありました。学校側に提案は行いましたが、負担にならないように配慮し、あくまで各学校の要請に沿って支援をしました。当団体が学校と社会をつなぐ役目を果たし、新学習指導要領前文の中にある「児童が持続可能な社会の創り手となること」に沿った学習を創造し、実践を支援することによって、教育を通してSDGsの実現を目指しています。

担当者からのメッセージ

今年度は、小学生だけでなく中高校生の反応がとてもよくて驚きました。講話を聞くときの表情は豊かであり、キリバス編の場合、前半の生活や文化の話では笑い声が聞こえてきました。後半の気候変動の話題になると表情が一変し、真剣な眼差しでメッセージを受け止め、中には涙を流す児童生徒も見られました。すべての講話に職員が同行することで、講師と学校をつなぐ役目を果たすとともに、講話を聞く皆さんの反応も見ることができました。



事務局員
亀崎 英治さん

宮城

共に学び、行動する民間ユネスコ運動へ

平和で持続可能な世界の実現を目指し、



宮城県仙台市



公益社団法人 仙台ユネスコ協会

ユネスコ憲章前文「人の心に平和の砦を築く」に賛同し、
世界初の民間ユネスコ協会を設立した先人の思いを
原点に、ユネスコのESD for 2030に取り組む

1947年の協会設立から77年。戦後復興の文化・教育の一端を担い、
今も続く「子ども絵画展」「国際交流事業」「ユネスコカレッジ」など
を開催してきました。設立70年目の2017年からSDGsへの取組を掲
げ、2020年に「キリバスプロジェクト」を開始。キリバス共和国に【民
間ユネスコ協会】立ち上げという目的を達成し、首都タラワ市に設立
された【ツンガルユネスコ協会】と共に、「共創プロジェクト」に取り
組んでいます。コロナ禍期間はオンライン講座で国際交流の幅を広
げたり、ユネスコカレッジに防災の視点でみちのく潮風トレイルを
組み込んだりと、時代に沿った、幅広い活動を展開しています。

■組織・団体に取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について
上：キリバスのSACRED HEART COLLEGEとオンライン交流を
した宮城県多賀城高等学校語学研究部の生徒たち
下左：青年部が仙台の伝統行事「七夕まつり」に「平和祈念七夕」で
参加。右端のくす玉と吹き流しがキリバスの国旗を表している
下中：2018年の第1回ESD講座
ESD/SDGsへの取組はここから始まった
下右：ツンガルユネスコ協会設立報告のシンポジウムで、
キリバスからオンライン参加する主要メンバー

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目1-1
仙台第一生命ビル5F (～9/17)
〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町1丁目8-13
仙台共立第一ビル4F (9/18～)
電話 022-224-2581
FAX 022-302-3406
E-mail sendai@unesco.or.jp
URL https://unesco.or.jp/sendai/



活動紹介

ユネスコセミナー 「産学官民で取り組むSDGs」 ～企業としてSDGsにどう向き合うべきか～



講師・話題提供企業・学校に多くの質問があり、
関心の高さが感じられた



セミナー会場の様子。様々な業種の企業が集まった

プロジェクト概要

SDGs推進のコーディネーションを掲げるユネスコとし
て、会員法人団体と連携してSDGsを推進したいとの考
えから企画しました。所属する80の企業、学校法人に
「SDGsの取組に関するアンケート」を実施、『現在取り
組んでいる目標は【G4教育、G7エネルギー】、今後取り
組みたいのは【G13気候変動】』という上位結果を受け
て、気候危機に対応する地域脱炭素の具体的推進を
柱に組み立てました。①行政による講演、②企業法人
による話題提供、③情報交換と3部構成にし、①では、
環境省東北地方環境事務所総括環境保全企画官と仙
台市環境局地球温暖化対策推進課長の講演、②では、
(株)七十七銀行、(株)ユアテック、仙台ターミナルビル(株)、
(学法)朴沢学園の話題提供と、非常に濃い内容となり
ました。それらを受けた③では、企業間、企業と教育と
の連携に関心が集まり、活発な質疑が交わされました。

ESD実践のポイント

会員法人が80団体あれば、業種、企業規模は様々です。
アンケートの中位回答は『現在取り組んでいる目標は
【G8経済成長と雇用、G11住み続けられるまち、G12生
産と消費】、今後取り組みたいのは【G5ジェンダー平
等】』でした。こうした多様な立場やニーズにどう応える
か、その方策として同アンケートから見えたのは、情報共
有と連携・協働への関心でした。セクターを超えた対話
と連携がSDGs推進には必須と考えられる今、民間ユネ
スコ協会の役割は、グローバルな視点での地域SDGs
のコーディネーションであると認識しています。○地域レ
ベルでの活動の促進、○国内・海外への情報発信と連
携、○ユネスコ協会間のつながりと強化、○他のステ
ークホルダーとの重層的なネットワーク形成の4つを推進
の柱に、フラットな立場でコーディネートする、民間ユネ
スコ協会らしい取組を、今後も継続していく予定です。

担当者からのメッセージ

平和への希求が根底であるユネスコ活動にSDGs推進の取組を入れることがすんなり心に落ちていない会員も
いる中、2017年にESD/SDGs委員会を立ち上げました。第1回市民講座が「今伝えたい地球温暖化最前線の国・キ
リバスのこと～いつまで他人事?」。その後、地球温暖化による気候災害の頻度が年々高まり、経済活動や消費者の動
向にも大きな影響を及ぼし、企業がその対応に動くことが急務となっています。今やセクターを超えた対話や連携し
てのSDGsの推進が必要で、当協会にとっても初めての企業連携の試みでした。参加者アンケートには、「ために
なった」「次回の開催を望む」などの感想をいただき、新しいつながりの姿も見られ、開催の手ごたえを感じました。



ESD/SDGs委員会担当副会長
内藤 恵子さん

秋田

地球温暖化問題と海洋汚染



秋田県秋田市



認定特定非営利活動法人 環境あきた県民フォーラム

水と緑に恵まれた秋田の豊かな環境を 次世代に引き継ぐために

認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラムは、住民・市民団体・事業者が相互に協力・連携しながら、地球温暖化防止活動や環境保全に関する事業を行うとともに、子どもをはじめとする県民各層に対する環境教育及び環境保全活動を推進することにより、環境問題の解決と持続可能な循環型社会の形成に寄与することを目的として活動しています。

秋田県地球温暖化防止活動推進センターやあきたエコフェス実行委員会事務局としても活動しています。

■組織・団体が取り組む課題(テーマ)[SDGs]



写真について

- 上: 体験学習を始めます
- 下左: 水力発電キットを使う子どもたち
- 下中: 保健所職員による火力発電キットの実験
- 下右: 海洋ごみを調べる子どもたち

〒010-0951 秋田県秋田市山王5丁目7-6 林泉会館内
 電話 018-853-6755
 FAX 018-853-6765
 E-mail mail@eco-akita.org
 URL http://www.eco-akita.org/



活動紹介

小学校での 環境学習会の開催



風力発電キットを使う子どもたち



保健所職員による講話

プロジェクト概要

秋田地域振興局福祉環境部と連携し、男鹿市立船川第一小学校の5年生を対象として、地球温暖化防止及び環境保全の意識向上が図られるよう講話と体験活動を行いました。

講話では、「身近な環境問題」とは何かの問いかけから始まり、地球規模の環境問題として「地球温暖化」、「海洋汚染」へと繋げていきました。

体験実習1では、班ごとに分かれて発電キット(風力、水力)を使い発電の仕組みを学んでもらった後、職員による火力発電キットによる実験を行い、風力、水力との違いを考えてもらいました。

体験実習2では、プラスチックごみの挙動(マイクロプラスチックの発生)として、海岸に漂着したプラスチックと新品プラスチックとの硬さの違いや比重による浮き沈みの違いを体験してもらいました。

ESD実践のポイント

小学校での環境学習会の実施にあたっては、教育事務所の協力を得ながら進めています。

地球温暖化防止及び環境保全の意識を醸成するため、体験型の環境学習会を実施することで身近な環境の変化に気づき、環境問題への関心を高めることにより、家庭での3Rや節電が二酸化炭素の排出抑制につながることを理解してもらい、環境活動の取り組みを推進させることができます。

担当者からのメッセージ

子どもたちからは、街中のごみが川や海へ流れて海洋汚染や海の生き物の命に関わってしまっていることや、地球温暖化が世界中で問題とされている今だからこそ環境について考える機会になったなどの感想がありました。

これからも、子どもたちが身近な環境の変化に自分で気づき行動につなげていけるよう教育機関や行政と連携して取り組みを続けていきたいと思ひます。



事務局長
泉 公夫さん